

「公印省略」

17病防第1号の7
平成17年10月5日

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

平成17年度病害虫発生予報第7号について

このことについて、以下のとおり送付します。

平成17年度病害虫発生予報第7号(10月)

【果 樹】

作物名	病害虫名	発生現況 (平成比)	発生予想 (平成比)
カンキツ	ミカンハダニ	並	並
果樹共通	カメムシ類	少ない	並

【果 樹】

1 カンキツのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平成並、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、寄生葉率は9.5%(平成:7.8%、前年:0.8%)、発生ほ場率は31.3%(平成:50.3%、前年:35.3%)であった。

イ 気象予報では、10月の気温は平成より高く、降水量は平成並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量 : 平成並、前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、カキの被害果率は0.4%(平成:4.7%、前年:5.8%)であった。

イ 同時期のヒノキのピーティング調査ではチャバネアオカメムシの寄生虫数は、1地点当

たり12.6頭であった(表参照)。

- ウ 同時期のヒノキ球果の被害球果率は82.6%、1果当たり口針鞘数は平均で13.3本であった。一部の地域ではヒノキから成虫が離脱するとされている25本を超えている。
- エ 9月1半旬~5半旬までの予察灯の誘殺虫数は次のとおりである。

(県内6カ所平均)

チャバネアオカメムシ	984頭(平年:2,360頭、前年:217頭、 15年:776頭)
ツヤアオカメムシ	44頭(平年:672頭、前年:26頭、 15年:181頭)

- オ 9月1半旬~5半旬までの集合フェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。
(調査地点:筑紫野市吉木)

チャバネアオカメムシ	16頭(前8か年平均:740頭、前年:894頭、 15年:20頭)
ツヤアオカメムシ	0頭(前7か年平均:741頭、前年:12頭、 15年:4頭)

- カ 気象予報では、10月の気温は平年より高く、降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 山林の周辺や例年発生が多い果樹園では今後の発生に十分注意する。
- イ 県南部地域の一部では、口針鞘数が25本を超えており、今後果樹園への飛来が予想されるので園内での発生に十分注意し、発生を認めたら直ちに防除を行う。
- ウ 収穫期の薬剤防除は、農薬使用基準(収穫前日数・使用回数等)を必ず遵守する。
- エ 果樹カメムシ類の発生状況は病害虫防除所ホームページに掲載しているので参照する。

表 ヒノキ球果における口針鞘数及びヒノキのピーティングによるチャバネアオカメムシ等の寄生虫数

9月5半旬

調査場所	ヒノキ球果		チャバネアオカメムシ								ツヤアオカメムシ			クサギカメムシ		
	被害球果率(%)	口針鞘数(本)	成虫数	幼虫数						計	成虫数	幼虫数	計	成虫数	幼虫数	計
				1令	2令	3令	4令	5令	計							
前原町高祖	90	10.5	5	0	0	0	0	0	0	5	6	0	6	0	0	0
古賀市青柳	90	12.8	12	0	0	0	0	1	1	13	2	0	2	3	0	3
宗像市山田	77	18.9	5	0	0	0	2	2	4	9	3	0	3	1	0	1
宗像市野坂	63	1.4	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	2
宗像市池田	93	18.2	20	0	1	3	3	0	7	27	4	0	4	0	0	0
庄内町入水	83	5.0	8	0	0	0	0	1	1	9	0	0	0	3	0	3
甘木市柿原	97	7.2	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	0	0	0
甘木市屋形原	97	17.1	25	0	1	1	1	0	3	28	0	0	0	5	0	5
甘木市三奈木	83	10.0	11	0	0	0	0	1	1	12	4	0	4	0	1	1
朝倉町宮野	100	17.9	14	0	0	0	0	0	0	14	1	1	2	3	0	3
朝倉町須川	53	2.5	12	0	0	0	0	4	4	16	2	0	2	0	0	0
杷木町志波	100	12.7	9	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	4	3	7
うきは市浮羽町小塩	97	25.5	79	0	0	0	0	0	0	79	0	0	0	1	0	1
久留米市田主丸町益生田	100	23.7	7	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0
大牟田市上内	100	11.9	5	0	0	0	0	1	1	6	0	0	0	0	0	0
山川町立山	100	15.5	30	0	0	0	0	1	1	31	0	0	0	0	0	0
立花町飛形山1	100	24.0	9	0	0	0	1	0	1	10	0	0	0	0	0	0
立花町飛形山2	100	36.9	40	0	0	0	0	0	0	40	3	0	3	0	0	0
黒木町野田山	100	10.1	13	1	0	0	0	1	2	15	1	0	1	2	0	2
黒木町今	100	17.2	6	0	0	0	0	0	0	6	5	0	5	0	0	0
黒木町本分	100	17.9	5	0	0	0	0	0	0	5	2	0	2	1	0	1
広川町梯	100	38.6	13	0	0	0	0	5	5	18	0	0	0	0	0	0
八女市宅間田	100	42.9	1	0	0	0	3	2	5	6	0	0	0	1	0	1
岡垣町高倉	30	1.5	4	0	1	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0
岡垣町上畑	90	6.4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
岡垣町戸切	70	3.9	3	0	1	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0
犀川町木山1	70	3.0	12	0	1	0	1	1	3	15	0	0	0	0	2	2
犀川町木山2	83	4.3	6	0	0	0	0	3	3	9	2	8	10	0	0	0
築城町本庄	7	0.1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
築城町櫟原	13	0.5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
築城町寒田	77	4.5	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	1
大平村唐原	80	3.9	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
平均	82.6	13.3	11.2	0.1	0.2	0.1	0.3	0.7	1.4	12.6	1.2	0.3	1.5	0.9	0.3	1.2

注1) 口針鞘数：1地点当たり30球果の平均

注2) ピーティング：1地点5枝、1枝当たり5回のたたき落としによる合計数

【野菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
イチゴ	うどんこ病 炭疽病 アブラムシ類 ハダニ類	並 やや多い 並 多い	並 やや多い 並 多い
ナス	うどんこ病	並	並
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	並 並 並	並 並 並
レタス	菌核病 灰色かび病 腐敗病	並 並 並	並 並 並
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 鱗翅目類	少ない 並 やや少ない 並 並	少ない 並 やや少ない 並 並
ネギ	シロイチモジヨトウ	並	並
野菜共通	ハスモンヨトウ オオタバコガ ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	並 やや多い 並 並	並 やや多い 並 並

【野菜】

1 イチゴの炭疽病

(*Colletotrichum acutatum* 菌による葉枯れ炭疽及び *Glomerella cingulata* 菌による炭疽病)

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発病株率は1.1% (平年：0.5%、前年：1.3%)であった。

イ 気象予報では、10月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている(以下の病虫害についても同じ)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 育苗期に本病が発生したほ場では、本ほでも発生する可能性があるため発生に注意する。
- イ 発病株は早めに除去し適正に処分する。
- ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する(以下の病害虫についても同じ)。

2 イチゴのハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年より多い

(2) 予報の根拠

9月5半旬調査の結果、発病株率は15.0%(平年：1.3%、前年：0.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発生後は防除が困難となるので、早期発見、早期防除に努める。
- イ イチゴ以外の植物にも寄生するので、ほ場周辺の雑草等の薬剤防除や除草を行う。
- ウ 寄生した株の葉かき後の複葉や抜き取った雑草は、ほ場周辺に放置せず速やかにビニル袋等に入れて密閉し処分する。

3 野菜共通のオオタバコガ

(1) 予報の内容

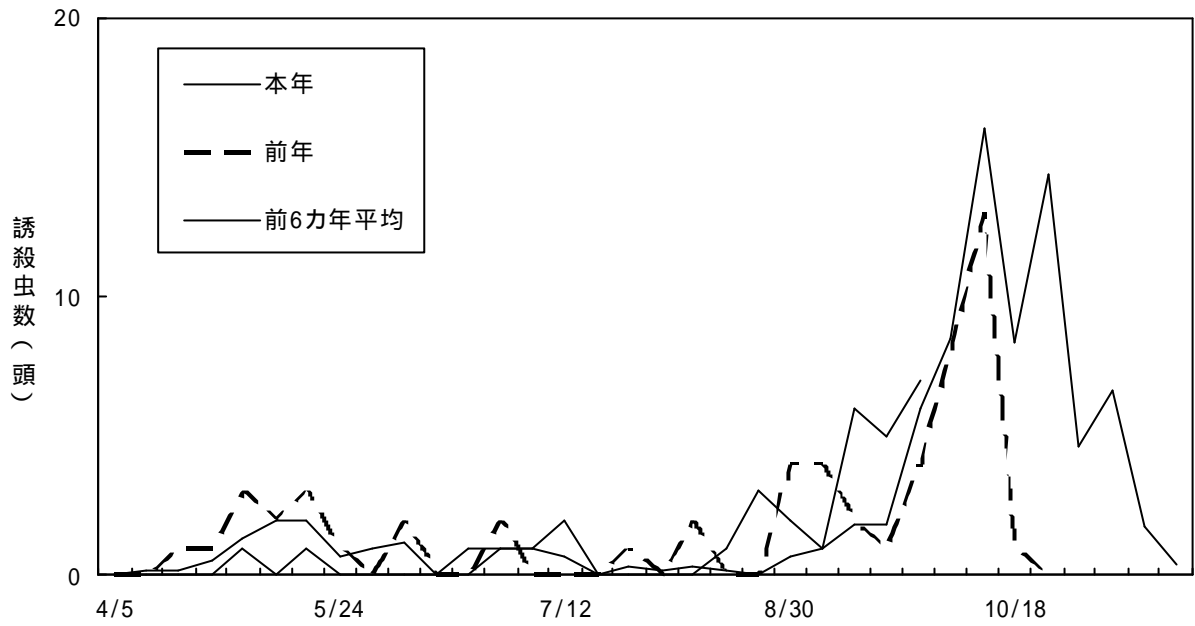
発生量：平年よりやや多く、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

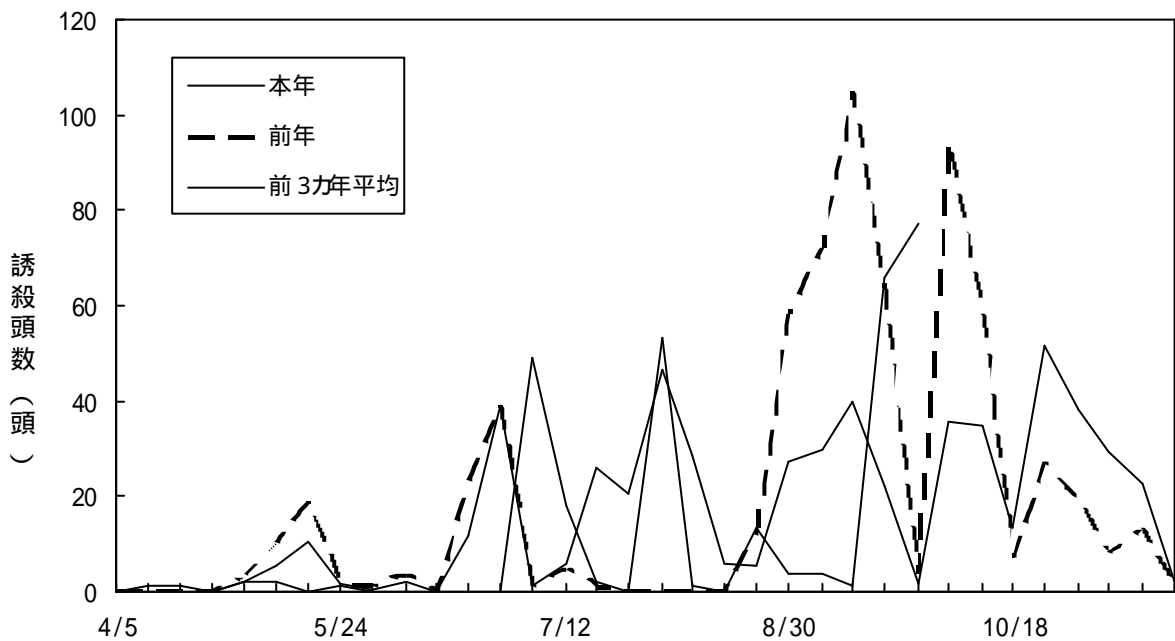
- ア 9月5半旬調査の結果、イチゴの寄生株率は2.6%(平年：0.2%、前年：0.4%)であった。
- イ 気象予報では、10月の平均気温は高く、降水量は平年並と予想されている(以下の病害虫についても同じ)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 中齢以降の幼虫は未熟果や結球部位に食入するため、薬剤の効果が著しく低下するので早期発見に努め、孵化直後の幼虫を狙って防除を行う。
- イ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため、4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。
- ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺虫数の推移 (広川町)



フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺頭数の推移 (大刀洗町)

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>
 電子メールアドレス kfok0301@sp.jppn.ne.jp

九州北部地方（山口県を含む） 1か月予報

（10月1日から10月30日までの天候見通し）

平成17年9月30日

福岡管区气象台発表

< 予想される向こう1か月の天候 >

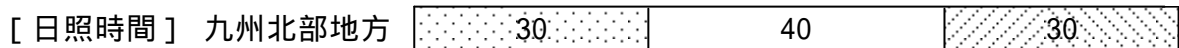
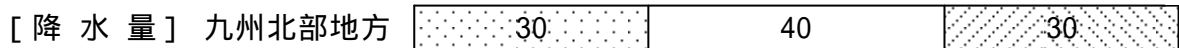
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。




九州北部地方では、天気は数日の周期で変わりますが、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量、日照時間はいずれも平年並でしょう。

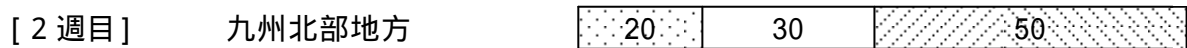
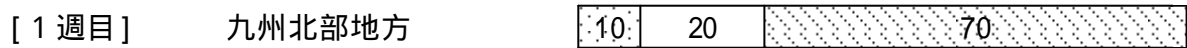
週別の気温は、1週目、2週目はいずれも高く、3～4週目は平年並か高いでしょう。




< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％） >



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

< 気温経過の各階級の確率（％） >



 低い  平年並  高い

< 予報の対象期間 >

1か月 : 10月 1日(土)～10月30日(日)

1週目 : 10月 1日(土)～10月 7日(金)

2週目 : 10月 8日(土)～10月14日(金)

3～4週目 : 10月15日(土)～10月28日(金)

< 次回発表予定等 >

1か月予報 : 毎週金曜日 14時30分 次回は10月7日

3か月予報 : 10月25日(火) 14時00分